組手仕（くでじゅう）ものがたり

国土の約7割が森に覆われている国、日本。
実は、「緑の砂漠」とも呼ばれる元気のない森が少なくありません。

日本の森はイマ・・・

戦後、国土の復興や高度経済成長に貢献するために、全国各地のはげ山にはスギやヒノキなどが植えられてきました。その森も約 50 年が経過する中で、今では収穫期を迎えていますが、手入れが遅れたり、手つかずになったりしてしまっている森が少なくありません。

組手仕の誕生

こうした中、間伐材や製材端材などを有効利用することで森に元気を取り戻そう、と生まれたのが「組手仕」。2010 年に愛知県名古屋市で開催された「COP10」の関連行事や、日本最大級の環境展示会「エコプロダクツ展」などで全国にお披露目され、高い評価を得ました。

被災地支援に活かされる組手仕

組手仕の環が拡がりはじめた矢先に起こった 2011 年 3 月の東日本大震災。仮設住宅の建設の遅れで避難所生活が長期化した被災者に、プライバシーの保護や日用品の収納のために組手仕が寄贈され、好評を得ました。また、地産地消での組手仕寄贈も生まれました。

国土緑化推進機構の「緑の募金」（東日本大震災復興事業）を通して寄贈される組手仕（マーク付き）

さまざまなカタチでひろがる組手仕

ひろがる組手仕

被災者にも好評を得た組手仕は、宮城県名取市では再建された図書館の本棚として使用、首都圏の工務店等や WEB ショップでの暮らしの中の利用の呼びかけなどが、その環は拡がりをみせています。

「間伐・間伐材利用コンクール」「住宅・木材振興表彰」など、さまざまな顕彰制度でも表彰されています。

身近な地域でさまざまなカタチで、組手仕の環を拡げてみませんか。